

取扱い仮想通貨の概要

仮想通貨の名称	Bitcoin	仮想通貨の単位	0.00000001 BTC
当該仮想通貨の仕組み	<p>【売買市場の有無】 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>【記録されている財産的価値】 ブロックチェーン</p> <p>【発行方法】 ・発行者は存在せず、マイニング作業に成功したマイナー(マイニング作業をする人)に報酬として新規発行されたBitcoinが与えられる。 ・発行上限が約2,100万BTCと決められているために、それ以上発行されることはない。 ※マイニング Bitcoinを採掘すること。厳密には掘るのではなく、コンピューターで計算を行い、いち早く正解にたどり着いた人に報酬として新規発行されたBitcoinと送付手数料が与えられる。</p> <p>【承認方式】 ・プルーフ・オブ・ワークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、発行と同様、マイナーにより行われる。 ・マイナーは、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</p> <p>【総発行量】 約1,801 万BTC (2019/10/29時点)</p> <p>【時価総額】 約18 兆 2,650 億円 (2019/10/29時点)</p> <p>【発行可能上限】 約2,100万BTC</p> <p>【一単位あたりの価値】 約101 万円 (2019/10/29時点)</p> <p>【決済完了性】 なし</p>		
その他の事項	<p>【発行者】 なし</p> <p>【リスク】</p>		

・価値変動リスク

需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。

・サイバー攻撃のリスク

国内外の交換所にてハッキングの攻撃を受けて、不正にビットコインを盗み取られた事例が複数存在する。

仮想通貨は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。

・流動性リスク

市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。

・決済完了性がないリスク

取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。

・ハードフォークによる分岐リスク

ハードフォークにより仮想通貨が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。

・51%攻撃リスク

マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと、恣意的にブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。

取扱い仮想通貨の概要

仮想通貨の名称	Ethereum	仮想通貨の単位	0.000000000000000001 ETH
当該仮想通貨の仕組み	<p>【売買市場の有無】 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>【記録されている財産的価値】 ブロックチェーン</p> <p>【発行方法】 ・Ethereumネットワーク上でのマイニング作業に成功すると新規発行されたEthereum がその成功したマイナー(マイニング作業をする人)に報酬として与えられる。 ・発行上限はない。 ※マイニング Ethereumを採掘すること。厳密には掘るのではなく、コンピューターで計算を行い、いち早く正解にたどり着いた人に報酬として新規発行されたEthereumと送付手数料が与えられる。</p> <p>【承認方式】 ・Ethereumネットワーク内での承認は、プルーフ・オブ・ワークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、発行と同様、マイナーにより行われる。</p> <p>【総発行量】 約 1 億 842 万 ETH(2019/11/5 時点)</p> <p>【時価総額】 約 2 兆 2,053 億円(2019/11/5 時点)</p> <p>【発行可能上限】 発行上限なし</p> <p>【一単位あたりの価値】 約 20,339 円(2019/11/5 時点)</p> <p>【決済完了性】 なし</p>		
その他の事項	<p>【発行者】 Ethereum Foundation</p> <p>【リスク】 ・価値変動リスク</p>		

需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。

・サイバー攻撃のリスク

プログラム(スマートコントラクト)のバグ(脆弱性)を攻撃されて、ファンド資金の一部を盗み取られた事例がある。国内外の交換所にてハッキングの攻撃を受けて、不正に通貨を盗み取られた事例が複数存在する。

・流動性リスク

市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。

・決済完了性がないリスク

取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。

・ハードフォークによる分岐リスク

ハードフォークにより仮想通貨が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。

・51%攻撃リスク

マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと、恣意的にブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。

取扱い仮想通貨の概要

仮想通貨の名称	Ethereum Classic	仮想通貨の単位	0.000000000000000001 ETC
Tougaikasoutuuka noshikumi	<p>【売買市場の有無】 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>【記録されている財産的価値】 ブロックチェーン</p> <p>【発行方法】 ・発行者は存在せず、Ethereum Classic ネットワーク上でのマイニング作業に成功すると新規発行された Ethereum Classic がその成功したマイナー（マイニング作業をする人）に報酬として与えられる。 ・発行上限はない。 ※マイニング Ethereum Classic を採掘すること。厳密には掘るのではなく、コンピューターで計算を行い、いち早く正解にたどり着いた人に報酬として新規発行された Ethereum Classic と送付手数料が与えられる。</p> <p>【承認方式】 ・Ethereum Classic ネットワーク内での承認は、プルーフ・オブ・ワークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、発行と同様、マイナーにより行われる。</p> <p>【総発行量】 約 1 億 1,482 万 ETC(2019/11/5 時点)</p> <p>【時価総額】 約 622 億円(2019/11/5 時点)</p> <p>【発行可能上限】 2億1,000 万 ETC(2019/11/5 時点)</p> <p>【一単位あたりの価値】 約 542 円(2019/11/5 時点)</p> <p>【決済完了性】 なし</p>		
その他の事項	<p>【発行者】 なし</p> <p>【リスク】 ・価値変動リスク</p>		

需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。

・サイバー攻撃のリスク

Ethereum 上のプログラム(スマートコントラクト)のバグ(脆弱性)を攻撃されて、集まったファンド資金3分の1以上を盗み取られた事例がある。

仮想通貨は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。

・流動性リスク

市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。

・決済完了性がないリスク

取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。

・ハードフォークによる分岐リスク

ハードフォークにより仮想通貨が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。

・51%攻撃リスク

マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと、恣意的にブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。

実際に国外の取引所にて実際に51%攻撃を受けた事例が存在する。

取扱い仮想通貨の概要

仮想通貨の名称	Lisk	仮想通貨の単位	0.00000001 LSK
当該仮想通貨の仕組み	<p>【売買市場の有無】 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>【記録されている財産的価値】 ブロックチェーン</p> <p>【発行方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックチェーンの初期の発行分は、プレセールの形で購入者に分配された。 ・取引の承認者に与えられる報酬として与えられる。 ・発行上限に達した後は、発行されることはない。 <p>【承認方式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Lisk の取引の承認は、デリゲイティッド(代理性)プルーフ・オブ・ステークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、選出された代表者により行われる。 ・代表者は、持ち回りで受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。 <p>※デリゲイティッド(代理性)・プルーフ・オブ・ステーク 所持している Lisk に応じて投票し、101 人の代表者を決める方式。</p> <p>【総発行量】 約 1 億 2,167 万 LSK(2019/11/25 時点)</p> <p>【時価総額】 約 83 億 3,067 万円(2019/11/25 時点)</p> <p>【発行可能上限】 発行上限なし</p> <p>【一単位あたりの価値】 約 68.47 円(2019/11/25 時点)</p> <p>【決済完了性】 なし</p>		
その他の事項	<p>【発行者】 Lisk Foundation(初期の発行分のみ)</p> <p>【リスク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値変動リスク 		

	<p>需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none">・サイバー攻撃のリスク 仮想通貨は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。・流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。・決済完了性がないリスク 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。・ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより仮想通貨が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。・51%攻撃リスク マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと、恣意的にブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。
--	---

取扱い仮想通貨の概要

仮想通貨の名称	Factom	仮想通貨の単位	0.00000001 FCT
当該仮想通貨の仕組み	<p>【売買市場の有無】 国外の取引所で扱われている。</p> <p>【記録されている財産的価値】 ブロックチェーン</p> <p>【発行方法】 ・サービス開始時に発行され、プレセールの形で分配された。 ・マイルストーンに従って発行される額が決まっており、それ以上発行されることはない。</p> <p>【承認方式】 ・取引の承認はプルーフ・オブ・ステークと呼ばれるコンセンサスアルゴリズムを用いて選出された代表者によって行われる。 ・受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</p> <p>【総発行量】 約 963 万 FCT (2019/11/15 時点)</p> <p>【時価総額】 約 29 億 8,387 万円 (2019/11/15 時点)</p> <p>【発行可能上限】 発行上限なし</p> <p>【一単位あたりの価値】 約 309.67 円 (2019/11/15 時点)</p> <p>【決済完了性】 なし</p>		
その他の事項	<p>【発行者】 Factom Foundation</p> <p>【リスク】 ・価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。 ・サイバー攻撃のリスク</p>		

	<p>仮想通貨は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</p> <ul style="list-style-type: none">・流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。・決済完了性がないリスク 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。・ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより仮想通貨が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。・51%攻撃リスク マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと、恣意的にブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。
--	---

取扱い仮想通貨の概要

仮想通貨の名称	Ripple	仮想通貨の単位	0.000001 XRP
当該仮想通貨の仕組み	<p>【売買市場の有無】 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>【記録されている財産的価値】 ブロックチェーン</p> <p>【発行方法】 ・サービス開始時に 1,000 億 XRP 発行され、これ以上発行されることはない。</p> <p>【承認方式】 ・Ripple, Inc.によって承認されたバリデータによって取引の承認作業が行われる。 ・バリデータは、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</p> <p>【総発行量】(市場流通量) 約 432 億 9,989 万 XRP (2019/11/18 時点)</p> <p>【時価総額】 約 1 兆 2,394 億円 (2019/11/18 時点)</p> <p>【発行可能上限】 1,000 億 XRP</p> <p>【一単位あたりの価値】 約 28.63 円 (2019/11/18 時点)</p> <p>【決済完了性】 あり</p>		
その他の事項	<p>【発行者】 Ripple, Inc.</p> <p>【リスク】 ・価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。 ・サイバー攻撃のリスク 国内外の交換所にてハッキングの攻撃を受けて、不正に通貨を盗み取られた事例が複数存在する。</p>		

	<p>仮想通貨は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</p> <ul style="list-style-type: none">・流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。・ハードフォークによる分岐リスク なし・51%攻撃リスク 取引の承認作業をしているものが不正を働いた場合、取引が覆るリスクがある。
--	--

取扱い仮想通貨の概要

仮想通貨の名称	NEM	仮想通貨の単位	0.000001 XEM
当該仮想通貨の仕組み	<p>【売買市場の有無】 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>【記録されている財産的価値】 ブロックチェーン</p> <p>【発行方法】 ・最初に発行された約 90 億 XEM がプレセールで分配され、これ以上発行されることはない。</p> <p>【承認方式】 ・プルーフ・オブ・インポータンスというコンセンサスアルゴリズムを用いて選出された管理者によって、取引が承認される。 ・管理者は、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。 ※プルーフ・オブ・インポータンス XEMの所持量や取引量に応じてスコアをつけ、上位のアカウントにブロック生成の権限を与える仕組み。</p> <p>【総発行量】 約 90 億 XEM(2019/11/18 時点)</p> <p>【時価総額】 約 402 億 6,264万円(2019/11/18 時点)</p> <p>【発行可能上限】 約 90 億 XEM</p> <p>【一単位あたりの価値】 約 4.47 円(2019/11/18 時点)</p> <p>【決済完了性】 なし</p>		
その他の事項	<p>【発行者】 NEM Foundation</p> <p>【リスク】 ・価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロ</p>		

	<p>口になる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none">・サイバー攻撃のリスク 国内の交換所にてハッキングの攻撃を受けて、不正に通貨を盗み取られた事例が存在する。 仮想通貨は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。・流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。・決済完了性がないリスク 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。・ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより仮想通貨が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。・51%攻撃リスク マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと恣意的にブロックチェーンの改ざん可能になるリスクがある。
--	---

取扱い仮想通貨の概要

仮想通貨の名称	Litecoin	仮想通貨の単位	0.00000001 LTC
当該仮想通貨の仕組み	<p>【売買市場の有無】 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>【記録されている財産的価値】 ブロックチェーン</p> <p>【発行方法】 ・発行者は存在せず、Litecoin のマイニング作業に成功すると新規発行された Litecoin がその成功したマイナー(マイニング作業をする人)に報酬として与えられる。 ・また、Litecoin は発行上限が約 8,400 万 LTC と決められているため、それ以上発行されることはない。 ※マイニング Litecoinを採掘すること。厳密には掘るのではなく、コンピューターで計算を行い、いち早く正解にたどり着いた人に報酬として Litecoin が与えられる。</p> <p>【承認方式】 ・Litecoin 取引の承認は、プルーフ・オブ・ワークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、発行と同様、マイナーにより行われる。 ・マイナーは、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。 ・ビットコインのプログラムコードを元に行っているため、基本的なシステムは同じであるが、採掘時のアルゴリズム(計算方法)が「SHA-256」ではなく、「Scrypt」である点異なる。</p> <p>【総発行量】 約 6,375 万 LTC(2019/12/02 時点)</p> <p>【時価総額】 約 3,210 億円(2019/12/02 時点)</p> <p>【発行可能上限】 約 8,400 万 LTC</p> <p>【一単位あたりの価値】 約 5,035.54 円(2019/12/02 時点)</p> <p>【決済完了性】 なし</p>		
その他の事項	<p>【発行者】 なし</p>		

【リスク】

・価値変動リスク

需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。

・サイバー攻撃のリスク

国内外の交換所にてハッキングの攻撃を受けて、不正に通貨を盗み取られた事例が複数存在する。

仮想通貨は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。

・流動性リスク

市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。

・決済完了性がないリスク

取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。

・ハードフォークによる分岐リスク

ハードフォークにより仮想通貨が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。

・51%攻撃リスク

マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと恣意的にブロックチェーンの改ざん可能になるリスクがある。

取扱い仮想通貨の概要

仮想通貨の名称	Bitcoin Cash	仮想通貨の単位	0.00000001 BCH
当該仮想通貨の仕組み	<p>【売買市場の有無】 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>【記録されている財産的価値】 ブロックチェーン</p> <p>【発行方法】 ・発行者は存在せず、マイニング作業に成功したマイナー(マイニング作業をする人)に報酬として新規発行された Bitcoin Cash が与えられる。 ・発行上限が約 2,100 万 BCH と決められているために、それ以上発行されることはない。 ・2017/08/01 にビットコインのブロックチェーンが分岐したことによって生まれた仮想通貨のため、2017/08/01 までに発行されたビットコインが引継がれている。 ※マイニング Bitcoin Cash を採掘すること。厳密には掘るのではなく、コンピューターで計算を行い、いち早く正解にたどり着いた人に報酬として新規発行されたBitcoin Cash と送付手数料が与えられる。</p> <p>【承認方式】 ・プルーフ・オブ・ワークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、発行と同様、マイナーにより行われる。 ・マイナーは、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</p> <p>【総発行量】 約 1,735 万 BCH(2018/09/21 時点)</p> <p>【時価総額】 約 8,970 億円(2018/09/21 時点)</p> <p>【発行可能上限】 約 2,100 万 BCH</p> <p>【一单元あたりの価値】 約 51,676 円(2018/09/21 時点)</p> <p>【決済完了性】 なし</p>		
その他の事項	【発行者】		

なし

【リスク】

・価値変動リスク

需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。

・サイバー攻撃のリスク

仮想通貨は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。

・流動性リスク

市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。

・決済完了性がないリスク

取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。

・ハードフォークによる分岐リスク

ハードフォークにより仮想通貨が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。

・51%攻撃リスク

マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと、恣意的にブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。

取扱い仮想通貨の概要

仮想通貨の名称	Monacoin	仮想通貨の単位	0.00000001 MONA
当該仮想通貨の仕組み	<p>【売買市場の有無】 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>【記録されている財産的価値】 ブロックチェーン</p> <p>【発行方法】 ・発行者は存在せず、マイニング作業に成功したマイナー(マイニング作業をする人)に報酬として新規発行された Monacoin が与えられる。 ・発行上限が約 1 億 500 万 MONA と決められているために、それ以上発行されることはない。 ※マイニング Monacoin を採掘すること。厳密には掘るのではなく、コンピューターで計算を行い、いち早く正解にたどり着いた人に報酬として新規発行されたMonacoin と送付手数料が与えられる。</p> <p>【承認方式】 ・プルーフ・オブ・ワークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、発行と同様、マイナーにより行われる。 ・マイナーは、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</p> <p>【総発行量】 約 6,572 万 MONA(2019/05/16 時点)</p> <p>【時価総額】 約 79 億 5,000 万円(2019/05/16 時点)</p> <p>【発行可能上限】 約 1 億 510 万 MONA</p> <p>【一単位あたりの価値】 約 120.96 円(2018/05/16 時点)</p> <p>【決済完了性】 なし</p>		
その他の事項	<p>【発行者】 なし</p>		

【リスク】

・価値変動リスク

需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。

・サイバー攻撃のリスク

仮想通貨は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。

・流動性リスク

市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。

・決済完了性がないリスク

取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。

・ハードフォークによる分岐リスク

ハードフォークにより仮想通貨が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。

・51%攻撃リスク

一定数以上のマイニング計算能力を悪意のある特定グループが保持してしまうと、恣意的にブロックチェーンの改ざんのリスクがある。

取扱い仮想通貨の概要

仮想通貨の名称	Stellar Lumens	仮想通貨の単位	0.0000001 XLM
当該仮想通貨の仕組み	<p>【売買市場の有無】 国外の取引所で扱われている。</p> <p>【記録されている財産的価値】 ブロックチェーン</p> <p>【発行方法】 ・サービス開始時に 1,000 億 XLM が発行されたが 2019 年 10 月 28 日に 500 億 XLM が焼却(バーン)され、発行総数は 500 億 XLM となった。</p> <p>【承認方式】 ・Stellar Consensus Protocol (SCP) という、Quorum Slices という信頼できるノードのみを承認者とするコンセンサスアルゴリズムを採用している。 ・信頼できるノード間で 66%以上の承認を得た場合新しい取引記録をレジジャーと呼ばれる台帳に記載する作業(Bitcoin のブロック生成に相当)を行う。</p> <p>【総発行量】 約 2,005,478 万 XLM(2019/11/06 時点)</p> <p>【時価総額】 約 1,777 億 884 万円(2019/11/06 時点)</p> <p>【発行可能上限】 500 億 XLM</p> <p>【一単位あたりの価値】 約 8.86 円(2019/11/06 時点)</p> <p>【決済完了性】 あり</p>		
その他の事項	<p>【発行者】 Stellar Development Foundation</p> <p>【リスク】 ・価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。 ・サイバー攻撃のリスク</p>		

仮想通貨は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。

・流動性リスク

市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。

・ハードフォークによる分岐リスク

ハードフォークにより仮想通貨が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。

・51%攻撃リスク

取引の承認作業をしているものが不正を働いた場合、取引が覆るリスクがある。

取扱い仮想通貨の概要

仮想通貨の名称	Qtum	仮想通貨の単位	0.00000001 QTUM
当該仮想通貨の仕組み	<p>【売買市場の有無】 国外の取引所で扱われている。</p> <p>【記録されている財産的価値】 ブロックチェーン</p> <p>【発行方法】 ・年1回およそ1%の新しいQTUMが生成されるように決められている。Qtumのプルーフ・オブ・ステーク(POS)コンセンサスアルゴリズムによって当選したブロック生成者に対してQTUMが発行される。 ※プルーフ・オブ・ステーク。 ステーキングによってロックされているQTUMの量に応じてブロック生成者を決める方式。 QtumはPOS Version 3を元に改良を加えられている。</p> <p>【承認方式】 ・ステーキングに参加しているユーザーは、全員のステーク量に対し自身のステーク量が占める割合に応じてブロック生成する機会が与えられる。 ・ブロック生成者は、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</p> <p>【総発行量】 約 1,078万 QTUM(2020/02/26 時点)</p> <p>【時価総額】 約 233億 342万円(2020/02/26 時点)</p> <p>【発行可能上限】 発行上限なし</p> <p>【一単位あたりの価値】 約 241.71 円(2020/02/26 時点)</p> <p>【決済完了性】 なし</p>		
その他の事項	<p>【発行者】 Qtum Foundation</p> <p>【リスク】</p>		

・価値変動リスク

需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。

・サイバー攻撃のリスク

仮想通貨は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。

・流動性リスク

市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。

・ハードフォークによる分岐リスク

ハードフォークにより仮想通貨が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。

・51%攻撃リスク

取引の承認作業をしているものが不正を働いた場合、取引が覆るリスクがある。